



木更津市立木更津第二中学校
〒292-0801 千葉県木更津市請西941番地
☎0438(36)2280 FAX0438(36)2233
E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp
<https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j>



木二中 学校だより 令和7年9月29日
No.20/105 校長 山元 竜二

Update Myself 「自分をアップデートする」 ～ 子ども(君たちみんな)は社会の宝物 ～

中学生の皆さんでもアップデートという言葉は知っていると思います。アップデートには、
update [名] 更新 変更 最新情報 [動] 更新する 最新の状態にする 改訂する

という意味があり、最近の若者は、アップデートを「アプデ」と略して用いるようです。MBS毎日放送の深夜番組「アプデしてる？」のように使うのだそう。この番組は文字通り、最新の流行や話題についてクイズを通して知識をアップデートしていくというもの。様々なジャンルのトレンドに敏感になるためには、「アプデ」しなければならないということなのでしょう。

この番組で「アプデしてる？」と用いられているように、アップデートという言葉は何もハードウェアを最新の状態に更新するという意味だけでなく、人に対しても用いられ、冒頭の「Update Myself」とは、まさに「新しい知識の吸収やスキルアップを図り、時代に最適な自分自身を作り続けること」を意味します。

「自分をアップデートする」という言葉を聞いたことがあるという人もいるでしょう。

では、木二中生の皆さん、「canalization」(キャナリゼーション)という言葉を知っていますか？
canalization [名] 水路化 (転じて心理学用語としての水路づけ、さまざまな可能性の中から、ある行動、習慣、または価値観が選択され、固定化されていく過程を指す。一度水路ができると、それが次第に確かな流れとなることに例えらる。

ちょっと難しいかな？さすがに英単語をよく知っている木二中生でもこの言葉は、意味も含めて知らないと思います。わかりやすく言えば、高いところから水を流すと水路ができますが、水は同じところを流れるという性質がある、つまり、水の流れが水路によって固定化されるように、人の考えや行動も固定化される傾向にある、と心理学の領域では言われているのです。

勘がいい人は、校長先生が何を言いたいのか、そろそろわかってくるのではないのでしょうか？そうです、俗に「頭が固い」とは、このキャナリゼーションのこと。脳内の決まった水路にしか水は流れないという例えから、考え方や行動パターンが固定化されてしまうこと言います。実はこれ、年齢とか関係なくて、私にも経験がありますが、大学生の頃、通学にはいつも山手線の同じ時刻で、同じ車両で、同じドアを使って〇〇駅の〇〇口の出口から出る…、何とこの行動こそがキャナリゼーションの始まりなんだとか。毎日決まった行動をとることを「ルーティン」と表現する人もいますが、そもそも人間は本来変化を嫌う生き物、毎日同じ行動を続けることで「脳」も安心するのかもしれない。

話を元に戻します。ビジネスの世界でも生産性の向上を妨げる人間の無意識な行動パターンとして「業務の水路化」が位置づけられていて、同じ仕事量をこなすなら、難しい仕事より簡単な仕事を、経験のない新しい仕事より手慣れた仕事を、責任ある重要な仕事よりも期限がせまった仕事を優先させてしまう、なんてことは当たり前のように行われますが、実はこれらは企業にとっては著しく生産性を低下させてしまうキャナリゼーションだと捉えられているのです。

やや遠回りしてきましたが、話の出口が見えてきましたね、そうです、だからこそ我々人間は、「自分自身をアップデートさせること」が必要なんです。新しい知識を吸収してスキルアップを図り、令和の新しい時代にマッチした自分自身を作ることが大切なんです。そしてそれを継続させる。

私は学校職員でもあるので、学校の例をいくつか挙げてみましょう。例えば私が教壇に立った平成初頭は、まだ印刷物はギリギリ手書きが存在していました。世にワードプロセッサ、いわゆるワープロが登場したかと思えば、いつしか文書作成はパーソナルコンピュータに代わり、ネット環境の劇的進化にChatGPTの登場で、今やプリントを手書きで作成する先生は、ほぼほぼ存在していません。また、中学生の皆さんがよく

理解できる例で言えば、一人一台端末ではないでしょうか？今やチョーク一本で勝負できる先生は、はっきり言って「化石」です。生徒指導面でも同じ、校長先生が中学生だった頃は、先生にゲンコツをもらう、廊下に立たされる、時には正座させられる…なんてことは普通にありましたが、今の時代は完全にアウト、体罰は虐待、人権侵害であるのは言うまでもなく、体罰によって怪我をすれば暴行傷害にもなります。物理的な体罰がなかったとしても、暴言、怒声・罵声は心理的虐待として立派な犯罪にあたります。血の繋がった親子ですら、身体的だろうが心理的だろうが、虐待は虐待、しっかりと児童虐待防止法で禁止されており、逮捕もされるのが今の世の中。虐待と疑われる事案を発見したら、事実であると確認できなくても学校の先生には通告の義務があるって知っていましたか？

学校の先生たちが、かつてのように厳しく指導できなくなったから「学校が荒れた」とか、「学校は生ぬるくなった」という人もいますが、実はそれは大きな見当違い。学校は、そこに属する生徒たちの夢と命を預かるという観点から考えれば、むしろ昔より厳しくなっているのが現状で、世の中が多様で複雑になればなるほど、皆さんの夢や命を守ることができるのは保護者の方々と私たち教職員しかいないと私は思っています。昔よりむしろ厳しくなっている最たる例が、昨今の先生方の長時間労働問題にはなりますが。

しかしながら残念なことに、本当に残念なことに、「自分をアップデートさせる必要はない。」と考える人も世の中には一定数存在していて、そういう人たちは往々にして「昔はいい時代だった」、「昭和は良かった」というのが口癖。古き良き時代を否定する気持ちは毛頭ありませんが、こういう人たちはちょっと、いや、かなりピントがズレている。大事なことをはき違えているということに気づけていない。どの時代にも、時代の変化や流行に左右されない普遍的な価値や本質(不易)が必ずありますが、令和の新しい時代に「絶対に通用しない事」がそれではない、そう断言できます。

学校の先生だって生徒たちが言うことを聞かないからといって怒声・罵声を浴びせて処分されたなんてことがごく稀に報道されたりしますが、私に言わせれば大きな声での「指示・伝達・アドバイス」は当然別にして、それ以外、生徒に向かって怒声・罵声・暴言を浴びせる姿は、この上なく滑稽(こっけい)にしか映りません。なぜなら、大きな声で怒声・罵声・暴言を浴びせれば浴びせるほど「私には指導力がありませーん！」と宣言しているようにしか見えないからです。思い通りにならないなら、と次にとる手段といたら新しい時代では絶対に通用しない手段になる…。当然そこに愛があるわけがない。

だからこそ私は、人は誰でも年齢を重ねれば重ねるほど、新しい時代に見合った自分自身へとアップデートさせなければならない、その際には、どんな立場であっても古き良き、正しい伝統は守りつつ、時代の変化に応じて新しさを取り入れることの両方が大事であり、それこそがアップデートなんだと思っています。

この先当面の、たった10年間でさえ、目まぐるしく世の中は変化するとされています。私が過ごしてきたかつての時代に比べたら、今私の目の前にいる中学生の皆さんは、きっと私以上にアップデートを繰り返さなければならないほど急速で、難しく、そして複雑・不確定な時代を過ごすことになるのはもう既定路線になっていることは確かです。どうか新しい時代に見合った自分へとアップデートを重ねながら、力強く、逞しく生きてほしい。科学技術がどんなに発達しようが、AIですら絶対に獲得することのできない能力が人間にはあると私は信じています。

どんなに目まぐるしく時代が変化しても、「不易流行」を大切にしてほしい。私がそのように強く思うのは、今目の前にいる君たち中学生が、これからの時代を担う社会の宝物だからです。

5年後、10年後の皆さんは、どんな自分に「アプデしてる？」のだろう…。